



★はやくん通信No. 30の抜粋記事です★

はやくんフォーラム2005 11月26～27 inかんぽヘルスプラザ東京

10周年を迎える「はやくん」フォーラム。遠藤さんの御挨拶で紹介のサブライズあり、win版勉強会、辞書講座、トロンありと盛りだくさんでした。

中でも今回の目玉はアジア太平洋地域全体を対象に、日本で活動している唯一の法廷記録を作成している会社（ARCR）を運営するジョディ・ハーモンさんをお招きして、講演・実演・交流ができたことでした。紙面の都合上、今号ではジョディさんの話題を掲載します。



さて、ジョディ・ハーモンさんのお仕事ぶり

（以下の記録は当日参加の手書き速記士（ハンドルネームGAさん）が速記されたものに基づいて作成しました。GAさん、ありがとうございました。）

デポジションとはディスカバリー制度の1つ。弁護士は証人の証言を裁判所外でとることも認められていて、裁判の前にデポジションを行うことがある。記録は逐語でとる。

リアルタイムを習い始めて5年経過。日本でのデポジションの90%がリアルタイムで行われている。話したことをパソコン画面に表示して通訳するほうが効率がいい。リアルタイムで弁護士たちはパソコン画面で見る。またインターネットで外部に流すこともある。外部にいる弁護士が法廷内の弁護士に指示を送ることができる。

ここで、リアルタイム速記のデモ



（ジョディさん、通訳の千早さん、法廷通訳のリゼさん）

登録語数は8万5000語。これでも少ないほうである。特許関係は1000語。事案ごとの辞書も作るが、一時的なもの。終わったら消去する。同音の語はすべて違う打ち方をする。リアルタイムを学習する前は同じ打ち方をしていた。英語では同音語は少ないので問題ない。

Q その場で略語を作ったりするのか。

A 時間があればできるだけ正しいスペルで打つ。また、弁護士が書類を見たり、通訳者が通訳している時間等を使って辞書登録し、楽に打ち出せるようにする

Q 準備はどのくらいするのか。

実際には6時間から8時間のデポジションを行うが、休憩時間や通訳している間にミスの修正を行うので、リアルタイム速記を終えた数分後にはミスの修正を完了する。（ミスが3カ所あり、その部分が違った色で表示されていた）

1件のデポジションは5日から10日。その期間、証人は入れかわる

条約により、アメリカ大使館、あるいは領事館でデポジションを行わなければならない。その場所で働ける時間は9時から5時までと決まっている。1ページ幾らという形で給料が出る。

左の群れを全部押下して「Q（質問者）」

右の群れを全部押下して「A（答弁者）」

複数人いる場合は人物に数字を振って対応するが、スクリーンには発言者名を表示する。

A 5日間のデポジションであれば、その前に2時間。
Q リアルタイムコトリポーターに認定されるまでにどのくらいの期間を要したか。働きながら勉強したのか。

A 17年間コトリポーターの経験を積んでから2年間。働きながら勉強するのが一番いいだろう。それは今週は数字など課題を決めて、仕事をリアルタイムの練習にできるから。

Q リアルタイムのための学校があるのか、それとも自習か。

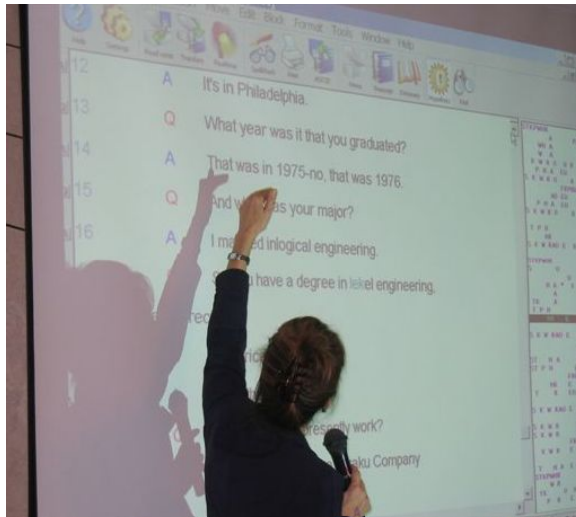
A 学校とセミナーがある。

Q コトリポーターの定義は、ステノタイプを使って話し言葉を書き言葉とする。法廷においては、後で当事者が参照できるよう、書き言葉による記録をつくり、保存するのが仕事。

アメリカの司法においては、刑事、民事の記録のガーディアンシップ（保護監督）はコトリポーターの手にゆだねられている。6万人以上のコトリポーターがアメリカにはいる。

リアルタイムコトリポーターは、最新の技術を使って、話し言葉をそのままリアルタイムに記録する。リアルタイムコトリポーターの認定は、1分間220ワーズ、98・5%以上の正確性が必要（ジョディさんは260ワーズ打てるそうだ）。

タイプミス、小さな間違いはプロシーディング（訴訟手続）終了後1時間以内に修正し、それが100%正確な記録となる。



アメリカにおいてコトリポーターが使われる分野は、

1. CART (Communication Access Realtime Translation) リポーティング 耳の不自由な方等に、話された言葉をスクリーンに映し出す
2. クローズドキャプションング TV画面に話し言葉を提供する
3. コングレショナルリポーティング 大きなホールで行われるセミナー、会議において、リアルタイムのトランスクリプションを大きな画面に映し出したり、インターネットを通してライブ放送したりする

技術習得が難しいのと認定が厳しいため、アメリカのコトリポーターのうち認定リアルタイムコトリポーターは3000人である。そのリポーターが作成した記録は、アメリカでは非常に信用性が高く法廷証言と同等に扱われるものである。

現在、リアルタイム技術によって、前日の記録を弁護士はボタン一つで見ることができる。そして大事なところにマークしたりコピーしたりすることもできる。その記録を使って反対尋問ができる。

更に懇親会などでの会話から

Q デポジションで1日に7時間速記したとして、それはラフな原稿のままにしておくのか。それとも、速記録に仕上げるのか。

A 全部記録にする。デポジションは公判の前の捜査段階で、証人を呼んで尋問する。ほとんど法廷に行くということはない。後に証言録が使われるが、どの部分が使われるか事前に分からないので、100%作る。

Q 例えば1時間速記したとして、それをどのくらいの時間で速記録に仕上げられるか。

A 15分ほどで終わる。リアルタイムでないコトリポーターのものは1時間かかるのものもある。

(ジョディさんと一緒に仕事をする機会の多い法廷通訳者のリゼさんのお話では、ジョディさんは17時に終わると、17時30分には記録にして出しているそうです。)

Q 米国の裁判では、なぜ速記がそんなに必要とされているのか。

A なぜ需要があるかという、弁護士の前のディスプレイに、文字で表示することができる。インターネットにつながると、ほかの国のディスプレイにもつながる。多くの人がその進行を見て、デポジ

ションに臨む。

弁護士のコンピューターに入っているから、その日の朝の証言を読むことができる。午後の法廷でその証言に違うところがあったら、違うんじゃないかと質問できる。

弁護士たちは、メモを取らなくて済む。弁護士たちが見るためのソフトは、インターネット上で無償でだれでもダウンロードができる。ハイライトをかける機能や、検索機能もある。

Q リアルタイム速記で、より正確な文字を出すために、校正者は使わないのか。

A 特にお金がかかっている事件は、リアルタイム速記が必須。そういうときは、スコーピスト（校正者）を同席させる場合がある。まれな場合で、弁護士たちが現場ですぐきれいな記録がほしいとき、修正の時間がない場合に、スコーピストを同席させる。

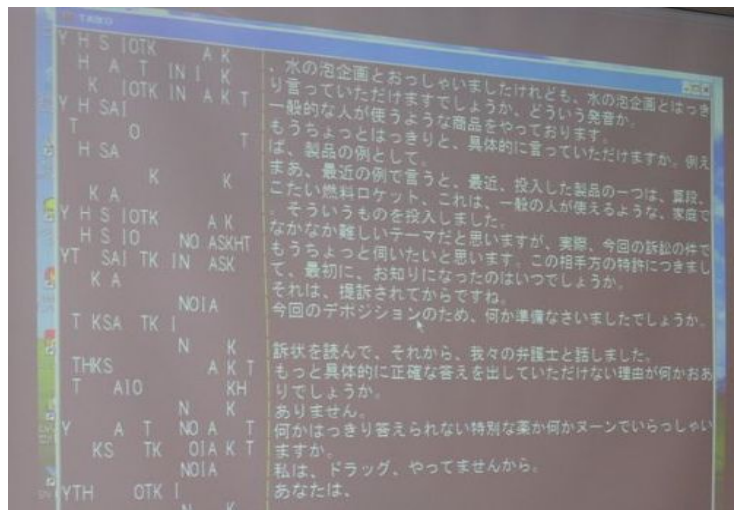
Q スコーピストとは、どんな人か。

A スコーピストは、速記者か、速記者上がりの人が多い。自宅のできる仕事なので、子供を産んだ人など。Eメールで送ったら、校正して返してくれる。

Q 校正するのに、事件記録を見る必要はないのか。例えば、人の名前などの固有名詞はどうするのか。

A 固有名詞は速記者の責任。それを直した上でスコーピストに送る。休憩のときに名前を確認する。

日米リアルタイム競演



ジョディさんの目を見張るリアルタイム速記実演の後、「はやとくん」も負けじと2人リアルタイムをお見せしました。素晴らしい腕前を披露しましたのは名児耶・加藤さんコンビです。日本語堪能な法廷通訳のリゼさんは、「日本語は同音異語が多いから大変ね！」との感想。さすが言葉の専門家ですね。

★☆☆